

会報「神葉」第三号  
昭和44年12月1日印行  
発行者 神田信忠  
編集者 森下真素雄  
発行所 津市広明町  
三重県神社庁内  
三重県神道青年会

## 神青協二十周年を迎へ

三重県神道青年会は終戦の混乱と斯道の一大危機であった昭和二十四年八月に発足した。当時は国内的にも国際的にも今なほ大きな不安と動揺の打続く中で世人の多くが思想的精神的の

苦悩と不安の救いを一途に求めると共に、斯道も神道指令によって大きな局面に際し次代を背負う我等青年の奮起を待望している時であった。この時それらの要望に答へんことを期し、県内の青年同志が深い信仰と堅い信念のもと若き情熱をもって日本民族のため神社神道のため一大結集をなしたのである。

その苦難の中を爾後歴代会長以下会員が一丸となって当会の強化発展への努力を重ねた。その活動は実に目覚しく中央に議長・副議長を常に送ると共に県にあっては会員の献身的努力により会務も活発な進展をなした。自己研修として、新祭式の講習・雅楽の講習・衣紋の講習・禊・鎮魂の講習・雑祭式の研究・古典の研究・郷土史の研究・社頭講演の研究・BSの研究・子供会の研究等を行ない、対外活動としては、神宮式年遷宮の街頭募金と奉賛の啓蒙運動、戦犯者の減刑署名運動、戦犯者の家族援護運動、松阪大火災の救済金の街頭募金、十三号台風災害神社の復興奉仕、伊勢湾台風罹災の神宮・神社の復旧奉仕、建国御神火大行

進、南極越冬隊員慰問文の発送、紀元節の復活運動、社頭講演の実施、夏期社頭ラジオ体操会の開催、斯道昂揚神社映画会の開催、神宮神域清掃奉仕、会報の発行、福祉施設の慰問、氏子青年との合同の神社巡拝研修旅行、お木曳の大々の参加、氏子青年会の結成とそれへの努力等なした。

この間に会員中よりボーイスカウトの指導者も多数輩出し、県理事長の要職等を占めると共に、県下に七園の育成団をもつ様になり、名実共に全国に誇るべきものとなっている。又氏子青年会の方も努力の結晶として支部、単位神社に多数の結成を見て、その中よりよきリーダーも続出し、その独自の活動期へと入ろうとしている。

二十周年を迎へ当県神道青年会もその間に多数の先輩を送り出したが、皆神道青年会に於ける体験を生かされて神社庁の要職たる副庁長・理事・支部長・教化委員・講習会講師等として活躍中である。そして我等後輩にある時は指導者・協力者として、又ある時は指導者・先導者として御尽力を戴き居り誠に心強い限りである。

我が三重県神道青年会よ、前述の先輩の努力と輝しい歴史の上に先輩に続けの合言葉のもと誇と意慾を燃し、会員一同団結し、がんばろうではないか。(神青協二十年史より)

### 創立二十周年記念号発行に当って

三重県神道青年会長

## 神田 信 忠

去る七月定例総会において前会長岡野俊文彦の後任として不肖の身でありながら会長の重責をお引受け致しました。その後本日迄会員諸兄に親しく御挨拶を申上げる機会がなく遺憾に存じて居りましたが、幸い本年は当会創立二十周年を迎え、諸先輩を始め会員各位の御協力により記念号として発行することに相成りましたので、私の考えて居ります一端を述べさせて頂き、皆様方の御指導御教示を賜りたく存じます。

本会も誕生以来二十年の歳月を歴代会長の御努力と会員諸兄の御尽力により、我々青年神職としての信念と実行力を持って種々の業績を残し二十周年を迎えた事を諸兄と共に慶びに堪えないところであります。私も昭和三十六年宇治土公先輩の会長時代より、副会長として御世話を受けて頂きましてより、去る七月迄三代の女房役として微力ながらも仕えて参りましたが、この間一大事業として氏子青年会組織の結成促進があげられます。

全国の氏子青年の集いを契機として、本県でも結成を目標に集いを重ね、幸に伊勢市や上野、阿山の神職及青年諸君の理解と熱情により、一早く単位神社氏子青年会の結成を見支部・県共に組織を進め全国的にも

きたんなき御教示を賜ります様に願います。

第二に神社指定団体との連係を密にし、互に固く腕を組み、山積せる諸問題に挑み、日本民族の正しい姿勢に、よみかえらすことが最も肝要であります。先輩の総代会・敬神婦人会との意思の疏通、氏子青年会との共同活動等を進めてこそ神道界に光明を与える事であろうと考えます。

第三に神宮式年遷宮奉賛運動の推進であります。先日宇治橋渡初め式には、神宮様の御高配により当会員及氏子青年会員の奉仕を許され、白衣白袴に身を清め、あたえられた最も重大な奉仕を善く了えさせて頂きました。三夫婦の方々の一生一度の栄光と感激に目に涙を浮べ

## 更に飛躍を祈る

三重県神社庁庁長  
本社本庁事務総長

林 栄 治

わが三重県神道青年会が、幹部諸君のご尽力によって、お互の研修を深め、斯道昇揚のために、青年らしく挺身され、年毎に充実されつつあることを、心から祝福し、お喜び申上げて居りましたが、この度は情報時代に因み、機関紙を発行されることに相成り、其の企画を聞いて多大の敬意を表する次第であります。機関紙は新しい情報を交換し、お互の責任を明らかにするものであるから、会員の啓発に役立つは勿論斯道の為に裨益する所大であり、今後

益々発展されることを信じて疑いません。

聊々青年時代は一生に二度とは到来しないのであるから、青年時代の長所を伸ばし、短所を抜く清めねばならない。或は自らを磨き学を修めるためのエネルギーに不足しないのが青年の長所である。そのために情熱溢れて血気にはやるのが短所でもあり又長所とも云はれて居る。

神職としては青年時代にこそ、古典の研究は因より祭式行事作法の修得、祭祀の研修、教化の活動に万難

を排して実績を積み上げて貰いたいものである。青年時代を怠けては取り返しがつかない。世に大学を卒業すれば、何でも知って居るかのようになり、錯覚を起し、世間の人も大切に遇するし、本人も亦何でも知って居るようになり振舞うことになって、大変な過ちを犯している事が多いので、それこそ気の毒な青年大学卒業者の多いことか。

先輩も教えてくれましたように、大学を出て講習にも出ないで知ったか振りをする者は必ず落伍するであろう。その反対に中学卒を恥ぢることなく、青年らしく、講習に講習を積み重ねて研修怠らず、勉強に励むならば、立派な人格者としての神職になり得ることを心に刻んでおくべきであります。

一生取り返しのつかない落伍者を出さないように、励まし合い、親睦団結し、青年の血潮を燃やし、積極的な活動を進めて貰いたいものである。年齢境に入っては、やれないことが多く、即ち青年時代でなければ実行出来ない分野を担当するため、青年神職の長所を益々益々發揮して、或は先輩を鞭つ活動を、或は後輩の鑑となつて励ます覚悟を持つて頂きたい。

現代は人手不足、殊に青年神職としても、人物に不足はなくとも、団体として人数に不足するのではない。各神社での行事なり、氏子活動が忙しくなつて、余暇の少なくなつて居る青年神職の皆様でありますから、少ない数の上に更に一層の団結を要請されるであります。殊に時局は洵に重大であります。殊に

## 青年神職に望む

神宮大宮司

徳川 宗 敬

三重県神道青年会創立二十周年を迎へられるにあたり、一言御挨拶を申し述べ機会を得ましたことは誠に慶びにたへません。

神道青年会の結成されました当時は、戦後の混沌たる情勢のもとにあって、きびしい神道弾圧が行なわれ、日本の輝やかしい伝統精神歴史は根本的にこわされ、人心が荒廃してよるべきところなく、神宮も大きな制度変革の中にあつて、まことに困難な道をすすみ始めたときであります。

この度新装成った宇治橋のように、古い伝統を守りつつ、新しさを求めて活躍して下さい。

その意味に於いて、此の機関紙の今後の活用とご発展とお祈りしてお祝辞と致します。

(四四、一一、二日宇治橋渡初め)

今やこれを契機として、悠久なる

## 青年神職に望む

三重県神社総代会  
会長

和波 久 衛

昭和四十三年は明治維新百年の年として祝賀記念の行事や国民精神昇揚の運動が各地で行なわれ、その反面大学に於ける紛争が表面化し暴力行使による混乱は本年になって頂点に達し、又沖繩問題・反安保・ベトナム戦争反対の所謂平和乃至反体制の活動は激化の一途を辿り、此の為に街頭や交通機関にも大混乱をひき起し、異状事態と云う点に於ては我が国史上特記すべき年となりました。

かかる異状事態の発生は偶発的なものではなく、発生すべくして発生した原因の存在することを認識しなければなりません。昭和二十年終戦後占領軍によってとられた法の改廃教育の改革等の占領政策が明かに日本の弱体化にあつた以上、当時から既に何時かは混乱が起ることは予想されていたのであります。

又日本人は兎角思想性に乏しく理性に基く批判・判断の訓練能力に欠け、極めて単純に感情的に激発し行

動する性質があり、この性質に原因することが大であります。

由来日本には三千年に及ぶ長い年月の間に築かれたすぐれた伝統や歴史が厳然として存在しています。この伝統や歴史によって育まれた日本精神・大和魂は我々日常活動の基礎でありました。それが唯一発の占領政策によって根本的に動揺を来たしたことは我々の歴史観や伝統の護持に於て客観的な又理性的な把握が十分であったために架空の神話とか封建とか云う一語を以て全く自信を喪失してしまつたと云はなければなりません。

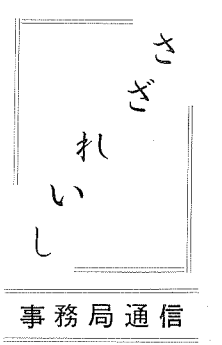
世間では大学問題は日本だけでなくフランスにも又米国内にも起っている。全く世界的な流行です。併し是は全く皮相な見方であつて、日本の大学騒乱は欧米のそれとは本質的に異なっています。日本の欧米と同じように教育制度の建設的な改良という面も含まれていますが、それはむしろ看板で大筋では反体制・革命が本体であります。此処でも理性的な分析や批判が欠けて居ます。

終戦以来二十四年を経過し世界の政治・経済・文化の流れは時々刻々変化し進展しています。日本も大きな変化・進展を遂げ産業貿易の面では飛躍的な成長をなしその成長は止まる処を知らない勢いを以て進んでいます。

併し大学騒乱に象徴される青年は果して物質面や精神面に於て此の飛躍を更に発展せしめ、民族の生命を永遠に持続し得る知性と能力があるかどうか真剣に考えねばならぬ時

阿山・上野市よりの会員は前日より車を出発した者あり。  
全員白衣・白袴に身を固めて午前八時半現地に着く。木の香も新しく日本晴の青空は五十鈴川を染め、汚れを知らぬ宇治橋が川面に映る。気分横溢。  
全国からこの盛儀に集つた三代夫婦、参列者は既に祭場の参列者席に集り始め、各人はそれぞれ東標旗を持ち、持場に着く。午前十時大官司以下神職の列の後渡り女が続き、響土橋神社の祭場に祭儀は始まる。  
深」としたひと時、息づまる様なひと時にも緊張しきつた三代夫婦の顔々。やがて祭儀も滞りなく晴り愈々渡り始めとなる。急に周りはざわめき渡り女を先頭に大官司・少官司ら神職が続く。北海道の三夫婦、参列者らが後に続き先づ仮橋を渡り宇治橋を内から渡り始めた。一步一步ふみしめる新橋は現代に古代絵巻を再現したかの如く荘厳に且時代に則つたにぎやかさを加え、神人和楽の境が宇治橋を中心に溢れ、のどかな平和な神の行事である。  
遠地からの三代夫婦、参列者は唯々有難さに声もなく、又青年会員もこの重儀にその責務の尊さを身に秘めて歩む足どりも重々しかった。初めの予定も大幅に乱れはしたものの群衆の中に実に和やかに時間通り終えた事は誠に有難かつた。  
総指揮の重責を抱いた私も一時はどうなるかと緊張したものの唯々神の御心に気をまかせ、信じ混乱を避け得た事は大御神の御加護と会員諸兄の実に真心からの奉仕のあつた事

にあると思ひます。  
神道青年会創立二十周年を迎えらるるに当り、青年会員の皆さんが神道を世界文化の大きな流れから見直し確固とした神道精神を以て世界の文化に貢献し、日本民族の生命を末永く保持する為め一層の研鑽と自信ある奮起を期待して止みません。



中央研修会

中央委員会開催

九月二十四・二十五日、静岡県小国神社に於て開催された中央研修会・中央委員会は、五県各会から多数出席して行なわれた。研修会では「日本の安全保障と国内情勢」について草間孝次先生より講演があり、会員一同国家安全護持の心を新たにされた。また委員会でも「氏子青年運動」のありかたについて討論され、「神社毎に青年会をつくる」ことを誓つて閉会した。  
本会からは中野・喜田川両副会長 森下書記が出席した。

氏青全国会長会議で

射手神社氏青が表彰

十一月八・九日の両日東京で開かれた氏子青年全国会長会議に於て、

射手神社氏子青年会(上野市)が全国表彰を受けた。  
現在なお発展を見ながら活躍されており、今後の躍進を期待するものである。  
本会から森下書記出席。

東海五県神青研修会

十一月二十八日、静岡県五社神社で第四回教化研修会が開かれ、本県提出テーマになっている「家庭に於ける宗教的情操教育はいかにあるべきか」について熱心に討議された。また今後の研修会のありかたについては、この研修会を幾度も持ちたいというのが各県の願いだつた。

本年退会者九名

会則により本年左記の方が会員を退かれました。  
今迄の御活躍・御協力に感謝いたしますと共に、今後特別会員といたします。

宇治橋渡り始式奉仕の感激

副会長 中野 幸彦

神路島路の山々もすっかり秋の深さを増し、深山に紅葉の美しい十一月二日、空は日本晴、早朝からの清々しさは秋冷の風に愈々心は引き締まる。  
二十年に一度の神宮の宇治橋渡り始め式の当日である。

三重県神道青年会は毎年神宮奉養を事業の第一に、各地でその実を上げつつも本日ここにその気はみなぎり、特に神宮の深いお思召により私

しまして、後輩の指導をよろしくお願ひいたします。  
内田良治君(三重郡) 駒田政美君(安芸郡) 平松和夫君(安芸郡) 岡野俊文君(志保郡) 片岡昭雄君(南紀) 樋口房麿君(鈴鹿市) 竹島巖君(鈴鹿市) 中谷駿一君(上野市) 田中勇登君(亀山市)

本年新会員三名

左記の三名が新会員になりました。今後よろしく指導をお願いいたします。

会費納入に御協力を

毎々の事ながら、経費御多端の折柄甚だ恐縮に存じますが、何卒本会のより一層の発展の為、未納の方は即時納金下さる様切望いたします。

達はこの光栄を授けて下さった事に感謝感激の外ない。三カ月前より事務局での諸準備に、神青会としてはぜひ氏子青年会にもこの機会を分かち、共に神恩に報わんとした。  
当日は氏子青年会三十五名、神道青年会十五名と計五十名であつた。前日神宮桜井祢宜外大西総務課長などの方々と現場に至り充分なる打合せを神田会長と行なう。当日午前七時三十分、猿田彦神社に全員集結。

と感謝の外はなかつた。会員も終始三夫婦の長老達をよく介け、足手を気づかつたこの楽しい一コマは長く各人それぞれに一生忘れ得ない事である。全ての行事が終えて直ぐ会場に導き、別れぎわに三代夫婦それぞれに会員に深く頭を下げて礼を述べられていた光景は見る目にも美しく、氏青会員にはこの時実は氏青会員の真の意味を覚つた者もあつた

宇治橋渡り始式に奉仕して

松 永栄木

十一月二日の宇治橋渡り始式当日、三重県神道青年会及び氏子青年会の会員は、神宮司庁から特に奉仕が許されて生涯の思い出に残る奉仕を致しました。私共にと与えられた役目は全国各都道府県から選ばれて来えの供奉をされる三夫婦の方々の祭場への案内、渡始の儀の際の誘導、祭典後の響膳所への案内でした。

当日の伊勢市内は、五色の吹流しや花で飾られ、正装の人人々が早朝から行き交ひ賑やかな中にも晴ればれとした空気が満ちておりました。猿田彦神社で更衣を済ませ、祭場受付に出て各自定められた県名旗を持ち、三夫婦の方々の祭場に案内、着席して戴いた大官司さん以下祭員・渡女等の参進を待ちました。

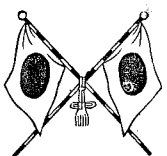
木の香も真新しく御造営成つた宇治橋を守り給う響土橋神社、その神前の広い祭場には大勢の参列員、三夫婦の人人々が、心を鎮めて祭典が始まるのを待たつたのです。二十年に

であろう。  
直会の赤飯は神の御奉仕の直会として美味しくいただけました。  
藤波氏青会長も馳せ参じ、神青・氏青一同和やかな談合の一時を交え全てを終つた御礼に皇大神宮の大御前に特別参拝を行ない、今後の会員としての一層の自覚を誓つた。  
唯々感謝と感激に終つた二十一年に一度の一大盛儀の御奉仕であつた。

一度の晴れの渡始式に参列、供奉出来る喜びが一面にみなぎっておりました。思えば二十一年に一度のこの神事に合える幸せがあふれているようでした。お互いに日本人に生まれた幸せをかみしめているようでした。  
時刻を迎えて、大官司さん以下祭員・渡女等の参進があつて、いよいよ待ちに待った祭典が厳やかに始まりました。祭典が進み、万度麻が宇治橋の北側第二柱に納められ、古式に従つた服装を身につけた渡女を先頭に、大官司さん以下祭員、各都道府県代表の三夫婦、参列員が仮橋を経て宇治橋を渡始めました。沿道を埋め尽した参拝者から期せずして拍手が湧き起り、この拍手が川の流れるように自然に拡がり、五十鈴の清流に、神路・島路の山々に響き渡るかのようでした。

日本晴れの中、五十鈴の流れるほとり、松の緑はいよいよ深く、その中に紅葉が見られ、神領の町々の旗

が立ち並び、新しい宇治橋と共に五十鈴の川面に映え、その中を延々と三夫婦・参列員の人の波が続き、渡始の儀は最高潮に達しました。この間どれほどの時間が経過したのか覚えておりませんが、敬けんな奉拝者の姿、その中から期せずして起つた拍手の波、新しい宇治橋を渡つた時幾度か感激で目頭が熱くなるのを押えることが出来ませんでした。この時の強い感動は、神宮がこのように健在であることは、日本の国が健在であること象徴するものだと感じることができました。この感動を得たことがこの儀式に奉仕出来た何物にも代えられない大きな収穫でした。  
無事渡始式を終えられた三夫婦を響膳所に案内し終り、恙なく役目を終えさせて戴いた感謝の気持ちを胸に一同揃つて内宮さんの大前にお参りした次第です。  
この感激と、喜びを一人でも多くの人に伝え、更に子孫にまで伝えることが、私共の重い責務であると信じております。



# 氏青会の育成でアンケート

## 関心意外に低調

- 本会では去る九月、氏青会結成に手がかりをと、県内神社の内、結成可能な神社五十社を対象に「氏子青年会の必要性や結成の意欲・方法」など十二項目について調査したが、氏子青年運動に対する関心は意外に低調なことがわかった。本会ではこの調査結果を県教化委員会に報告し協力を求めたが、本会としても「結成意欲があると見込まれた」神社を手はじめに助言指導を行ないつつ、氏子青年会結成の手がかりをつかもようと、努力することになった。調査結果の概要は次の通り。
- 1、氏子区域内に存在している氏子青年は何%いるか。  
一〇%一五、二〇%一三、四〇%一、九〇%一、無回答七
  - 2、地域の青年団は結成されているか。  
いる一八、いない一九
  - 3、氏子内の青年と話合ふ機会があるか。  
ある一二、ない一四  
無回答一
  - 4、祭に氏子の青年層の参加があるか。  
ある一二、ない一四  
無回答一
  - 5、青年対象の教養講座的な集りがあるか。  
ある一二、ない一三  
無回答二
  - 6、神社で結成している団体があるか。  
ある一七、ない一〇  
▽あると答へた神社  
敬神婦人会一〇、講社一二、少年団・子供会一二、無回答三
  - 7、氏子内にリーダーとなる青年がいると思ふか。  
思ふ一五、思はない一八、判らない一二、無回答二
  - 8、氏子青年会は神社にとって必要と思ふか。  
思ふ一三、思はない一、判らない三
  - 9、氏子青年会を結成しようと思ふか。  
思ふ一七、思はない一五、結成済み一、無回答四
  - 10、将来の神社を支へるのは氏子青年ですが、今その基礎を確立するために氏子青年会が最も至近だと思ふが、この点どう思ふか列挙して下さい。

して下さい。

回答一二 (無回答一五)

- 11 氏子青年会結成の最中心になるのは誰か。  
宮司一八、総代一三、神道青年会一五、神社庁一。
- 12 氏子青年会を育成するにはどうしたらよいか、具体的に。  
▽幹部を招集して趣旨を徹底するのが先決▽まとまりのよい集団なら既成の青年団を氏子青年にしてよい▽氏神、氏子のつながりを強調する▽レクリエーションを取入れる▽毎月一、二回社務所に集めて世論をきく▽本部で機関紙を毎月発行し 区青年に直送する▽教養講座を開く▽良きリーダーを養成する。

### 祝 三重県神道青年会 創立二十周年記念

- 三重県神社庁
  - 三重県氏子総代会
  - 三重県敬神婦人会
  - 三重県氏子青年会
  - 三重県神S協議会
  - 三重県神道青年会
- OB

### 編集後記

○神青協二十周年を迎へ、神道青年に対する関心と期待もまた頗る大きなものがあります。

○集団暴力、革命勢力が存在する現今、神道青年として現代に生きる私たちの責任は誠に大きなものがあります。

○本号から、前号迄担当していただいた中野副会長のあとを受け、新会員で何もわからない私がその重責を命ぜられました。編集についてなにかと失敗もあると思いますが、内容・御意見はどしどし御遠慮なくお申出下さい。

○今後積極的に会員各位の編集参加をお願いするとともに、ご指導・ご協力の程、お願い致します。

(森下)